



岐阜県政記者クラブ加盟社 各位

令和5年2月22日(水) 岐阜県発表資料			
所属	担当係	担当者	電話
脱炭素社会 推進課	企画係	勅使川原 政樹 浅野 尚宏	内線 2944 直通 058-272-8405 FAX 058-272-8407

「脱炭素社会推進フォーラム」を開催しました

1 日時 令和5年2月21日(火) 10:00~12:00

2 場所 県庁1階 ミナモホール(岐阜市藪田2-1-1)

3 内容等 ○知事あいさつ

- ・「脱炭素社会」このテーマは今や岐阜県、日本をはるかに超えた全地球的な課題となっている。
- ・今日は、ひとつでも多く、一人ひとりが気づき、発見していただき、それぞれの職場、生活の場に持ち帰っていただき脱炭素につなげていただければ幸い。

○講演会

講師：伊藤 聡子 氏(フリーキャスター)

テーマ：脱炭素社会の実現に向けて、今取り組むべきこと

- ・CO₂の削減はサプライチェーン全体でカウントされる。取り組まないと取引ができなくなる。
- ・省エネに取り組むことは、経費抑制につながり企業にはメリットになる。
- ・モノづくりのDXによる省人化は脱炭素に繋がっていく。

○リレープレゼンテーション

登壇者(1)：鈴木 修一郎 氏(株式会社ウェストボックス 代表取締役)

- ・脱炭素はダイエットに例えることができる。体重を把握して、目標をもって、進捗を報告していく。こうした自己管理ができれば評価に繋がる。
- ・脱炭素化の流れは加速し、サプライチェーンに要求が及ぶ。対応できないとリスクになる。

登壇者(2)：高橋 克郎 氏(高橋金属株式会社 専務取締役)

- ・脱炭素のきっかけは、社会貢献ビジネスの模索。まずは自社内で行うことができる環境への取組みを検討した。
- ・「コスト削減」「脱炭素化」の同時達成を実現するために(一財)省エネルギーセンターが提供する「省エネ最適化診断」を実施した。
- ・経営陣のみでは脱炭素は進まない。従業員に対するアプローチが重要。社内セミナーや社内会議で全社共有を図っている。

登壇者(3)：^{すぎき} 鷺崎 ^{じゅんいち} 純一 氏 (株式会社スザキ工業所 代表取締役)

- ・何をどうすればいいのか、わからないことだらけだったが、専門家への相談と全従業員による勉強会から始めた。
- ・まずは現状把握と省エネ最適化診断の実施を元にスタート。
- ・「地道にコツコツ」と「投資してでも」の二つの目線で対策案ができれば即実施。計画を立てることから。
- ・やってみたら当たり前のことがほとんど。「無駄使いはダメ」を忘れていた。

4 参加者 約440名

5 当日の様様





鈴木 修一郎 氏



高橋 克郎 氏



鷲崎 純一 氏

(※) 写真データをご利用の場合は、脱炭素社会推進課までお問合せください。